

2006-2007

# オープンアクセス入門

2007年12月14日



逐次刊行物研究分科会

## 活動報告1

- ◆2006-2007年度
  - ◆正会員 4名(4大学)
- ◆月例会
- ◆夏期集中研究会
- ◆施設見学
- ◆講演会
- ◆合同例会(図書館運営戦略研究分科会)



逐次刊行物研究分科会

## 活動報告2

- 月例会
    - 文献レビュー
    - 電子ジャーナルについて
    - コンソーシアムについて
    - 外国雑誌契約方法について
    - 価格の高騰について
    - 出版社の吸収合併について
- …などなど



逐次刊行物研究分科会

## 活動報告3

活動を通して…

外国雑誌の価格高騰に対応すべく  
様々な手段がある事を認識

→文献レビューや講演会で情報収集を行った



もっと詳しく知りたい



逐次刊行物研究分科会

# オープンアクセス入門

1. 価格の高騰
  2. 出版社の吸収合併
  3. コンソーシアム
  4. 学術情報基盤の変化
    - a. オープンアクセス
    - b. 機関リポジトリ
  5. ASIAの状況
  6. おわりに
- 



逐次刊行物研究分科会

# 価格の高騰

主要出版社雑誌の値上がり率(2001年を基準とする)

(A大学の例)

2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
—	7.91%	16.35%	25.89%	34.24%	42.02%	48.02%



逐次刊行物研究分科会

# 価格の高騰

- 価格高騰の背景
  1. 学術情報の莫大な増加
  2. デジタル化への一時的な投資が価格に反映
  3. 学術出版社の吸収合併

⇒コンソーシアムの形成  
⇒オープンアクセス運動



逐次刊行物研究分科会

## 出版社の吸収合併

### 過去10年のおもな出版社の動き

1997年	Elsevier がMDL,Chemweb,Bellstein,BioMedNet,Current Biology, Engineering Information を買収
1997年	Wolters Kluwer がThomson Science を買収
1998年	Wolters Kluwer がOvid Technologies Inc.を買収
1998年	Elsevier がMatthew Benderを買収
1998年	米国化学会がHampden Data Services Ltd.を買収
1999年	OCLC とWLN が合併
1999年	Elsevier が JAI Press, Cell Press を買収
1999年	Blackwell Information Services と Swets Subscription Services が合併
2000年	Ingenta がUncover を吸収
2001年	Ingenta がCatchWord と合併
2001年	Wolters Kluwer が Silverplatter を買収
2001年	Read Elsevier 本社が Harcourt General Inc.を吸収合併
2001年	Blackwell Science, Blackwell Publishers 及び Munksgaard 3社が合併し Blackwell Publishing となる。
2002年	Thomson が英国の情報サービス Current Drugs Ltd.を買収
2002年	Ebsco が看護学文献 CINAHL Information Systems を買収
2004年	Springer が Kluwer を吸収合併
2004年	Thomson が Information Holding Inc.を買収
2004年	Thomson が BIOSIS の出版部門を買収
2006年	John Wiley & Sons Inc. が Blackwell Publishing Ltd.を買収
2006年	Springer が Human Press を買収
2007年	ProQuest Information and Learning 社が Cambridge Scientific Abstracts 社と合併
2007年	Cambridge Information Group が Proquest を買収

# コンソーシアム

## 電子ジャーナルの共同購入

特定地域など大学図書館が協力して行う利用者サービス



逐次刊行物研究分科会

# コンソーシアム

## コンソーシアムの歴史

**1998-2000:** 国立6大学によりIDEALコンソーシアムを発足

**2000-2002:** 国立大学図書館協議会がタスクフォースを発足  
(4社とのコンソーシアム契約が成立)

**2002-2003:** コンソーシアム契約は4社から13社へ



逐次刊行物研究分科会

# PULC

PULC(Private and Public University Libraries Consortium)の歴史

**2002.1:** 5私立大学がコンソーシアム契約に向けてISI社と協議開始  
→ 2002.10 15私大とISI社間でコンソーシアム契約成立

**2003.7:** 私立大学図書館コンソーシアム(PULC)設立

**2005:** 公立大学の一部の交渉の参加を認める

**2006:** 公私立大学図書館コンソーシアムとなる



逐次刊行物研究分科会

# PULC

## PULC形成の目的

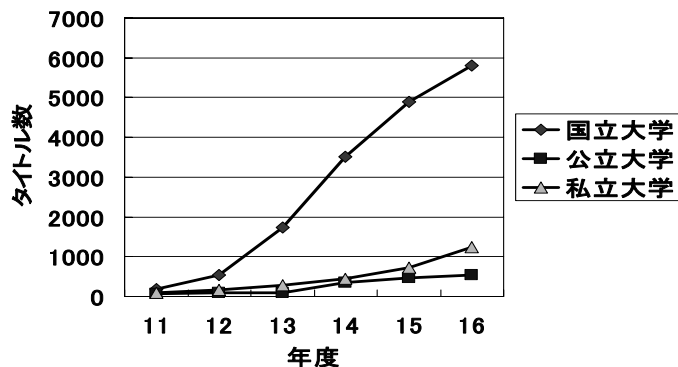
電子ジャーナル、データベース導入にかかる諸条件について出版社、販売代理店等と、加盟大学を代表して統一的な交渉を行なう

5大学からスタート→2007年12月現在278大学  
※世界最大規模のコンソーシアム



逐次刊行物研究分科会

# 電子ジャーナル導入タイトル数



	H11	H12	H13	H14	H15	H16
国立大学	198	550	1,732	3,505	4,883	5,797
公立大学	61	90	86	361	463	534
私立大学	83	171	277	436	716	1,230

学術情報基盤実態調査（文部科学省）より

## 学術情報基盤の変化

平成18年3月23日 文部科学省

「科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会

学術情報基盤作業部会」

1. 国全体の学術研究のためのインフラ(基盤)整備の強化
2. 競争原理ではなく、一定の政策的配慮が必要
3. 大学と他機関相互の連携
4. 研究環境の整備・運営を国の施策として推進する



逐次刊行物研究分科会

# 学術情報基盤の変化

平成18年3月23日 文部科学省

「科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会

学術情報基盤作業部会」

～電子化への積極的な対応策～

1. 電子化の推進と貴重書等資料の電子化
2. 電子資料の確実な保存とアクセス環境の確保
3. 電子化の新たな波への対応
4. 機関リポジトリの推進



逐次刊行物研究分科会

# オープンアクセスとは

学術雑誌論文を無料で制約なく、オンライン上で利用できること



逐次刊行物研究分科会



# オープンアクセス運動

- シリアルズ・クライシス
- ブダペスト運動
- ベセスタ宣言
- ベルリン宣言
- SPARC



逐次刊行物研究分科会

# SPARC

- **S**cholarly **P**ublishing and **A**cademic **R**esources **C**oalition
- 学術雑誌の価格高騰が引き起こす学術情報流通の危機
- 大手商業出版社の高額雑誌に対抗できる学術雑誌の刊行など学協会の出版活動を支援する目的で発足



逐次刊行物研究分科会

# SPARC/JAPAN

- 国際学術情報流通基盤整備事業  
(SPARC/JAPAN)
- 国内学術雑誌の電子化を促進し、国際的評価を高め、適正価格で提供できるビジネスモデル形成の支援を行う



逐次刊行物研究分科会

## オープンアクセス実現のための手段

- オープンアクセス雑誌
- セルフアーカイブ



逐次刊行物研究分科会

## オープンアクセス雑誌の種類

- 完全無料型
- 著者支払い型
- 電子版のみ無料型
- 一定期間後無料型(エンバーゴ)
- ハイブリッド型



逐次刊行物研究分科会

## 完全無料型

- 出版経費： 助成金  
(投稿料、掲載料、購読料等なし)
- 事例： First Monday、D-Lib Magazine



逐次刊行物研究分科会

## 著者支払い型

- 出版経費： 著者負担＋助成金
- 事例：PLoSの雑誌、BioMed Centralの雑誌



逐次刊行物研究分科会

## 電子版のみ無料型

- 出版経費： 印刷版購読料
- 事例： 学協会誌(J-STAGE)



逐次刊行物研究分科会

## 一定期間後無料型(エンバーゴ)

- 出版経費：印刷版購読料
- 事例：HighWireの雑誌



逐次刊行物研究分科会

## ハイブリッド型

- 出版経費：印刷版購読料＋著者負担
- 事例：大手出版社、学協会誌



逐次刊行物研究分科会

# セルフアーカイブ

研究者が自分の研究成果をオンライン上で無料公開するもの

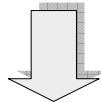


逐次刊行物研究分科会

# 著作権の問題

多くの場合、学术论文の著作権は著者によって保持されず、出版社に譲渡されている

著者のサイト、機関リポジトリに論文を掲載



出版社の許諾が必要

---

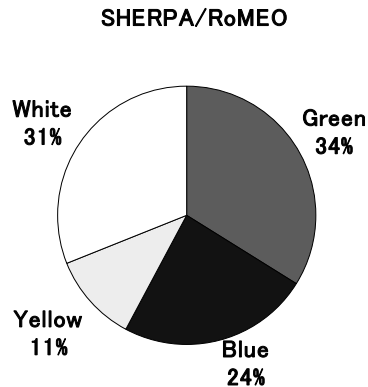


逐次刊行物研究分科会

# 著作権の問題

SHERPA/RoMEO (337出版社)  
英国ノッティンガム大学が作成

Green: 査読前・査読後両方  
Blue: 査読後のみ  
Yellow: 査読前のみ  
White: 認めない



<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php> [07/11/9]

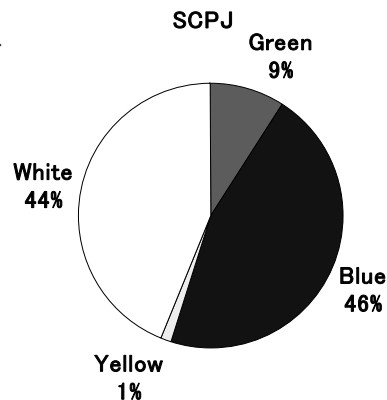


逐次刊行物研究分科会

# 著作権の問題

学協会著作権ポリシーデータベース  
(332学協会)  
筑波大学、千葉大学、神戸大学  
が作成

Green: 査読前・査読後両方  
Blue: 査読後のみ  
Yellow: 査読前のみ  
White: 認めない



<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/> [07/11/9]

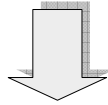


逐次刊行物研究分科会

## 著作権の問題

学協会著作権ポリシーデータベース登録データ数  
1,834件

Gray: 検討中・非公開・無回答など1,502件



セルフアーカイブについて  
方針を決めている学協会は少数



逐次刊行物研究分科会

## 著作権の問題

『認める』としている学協会でも

- 事前照会や申請
- 出版社版の公開
- 公開場所、公開条件

などに違いがある



逐次刊行物研究分科会



## セルフアーカイブ

- 著者自身がウェブサイトで公開
- eプリント・アーカイブ
- 政府主導型アーカイブ
- 機関リポジトリ



逐次刊行物研究分科会

## eプリント・アーカイブ

- 分野別プレプリントを蓄積・提供するシステム
  - arXiv
    - 1991年ギンスバーグが創設
    - 物理学などの分野のプレプリントを蓄積
- プレプリントを交換する伝統がない分野には不向き

\* プレプリント: 学術論文の刊行前原稿



逐次刊行物研究分科会

## 政府主導型アーカイブ

- PubMed Central
  - 米国国立衛生研究所(NIH)の補助金による研究成果
  - 刊行後1年以内
  - 著者最終稿



逐次刊行物研究分科会

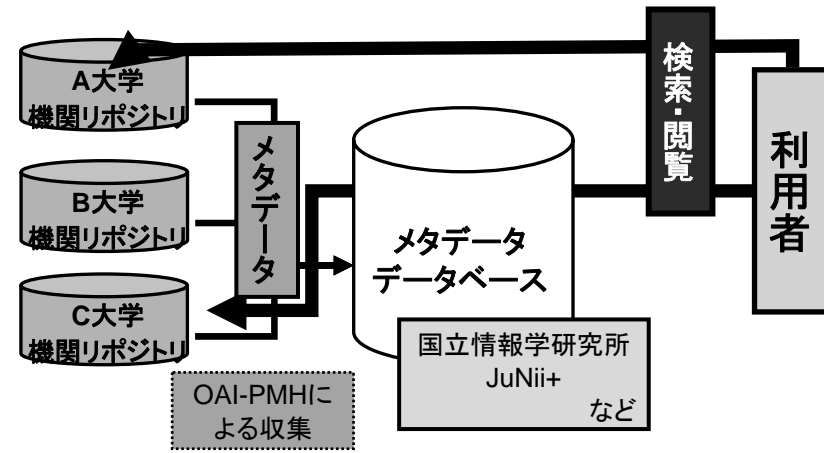
## 機関リポジトリ

- 大学・研究機関などで生産される研究教育成果を保存・蓄積しオンライン上で公開するデータベースとその提供システム
- 国立情報学研究所支援のもと、2007年11月現在67大学の機関リポジトリが公開されている
- 世界では954のリポジトリがある。(2007年11月現在)



逐次刊行物研究分科会

## 機関リポジトリのしくみ



逐次刊行物研究分科会

## 機関リポジトリの意義

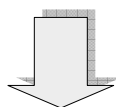
- 研究教育成果の可視性・伝播・被引用機会のアップ
- 社会への研究教育活動・成果の説明責任
- 研究教育成果の保存
- 機関の広報、知名度アップ
- 学術情報流通に貢献



逐次刊行物研究分科会

# 機関リポジトリと図書館

図書館が中心となり、機関リポジトリを構築・運営



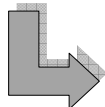
なぜか？



逐次刊行物研究分科会

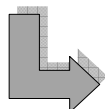
# 機関リポジトリと図書館

- 学術雑誌の価格高騰による購読中止



図書館コレクションの質が低下

- 従来の図書館機能



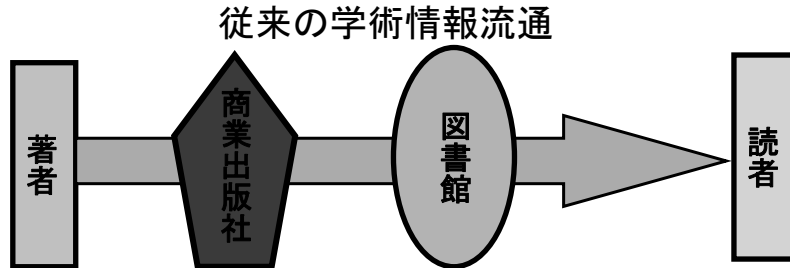
資料の収集・整理・管理・保存・提供



逐次刊行物研究分科会

# 機関リポジトリと図書館

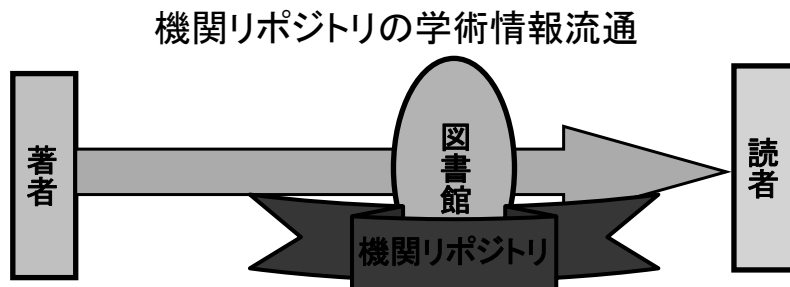
- 学術情報流通に貢献



逐次刊行物研究分科会

# 機関リポジトリと図書館

- 学術情報流通に貢献



★図書館の存在感の増大



逐次刊行物研究分科会

## 機関リポジトリの問題点

- 機関内合意
    - 機関
    - 研究者
  - 人的資源
    - 知識・スキル
    - 連携
  - コンテンツ
    - 機関のポリシー
- 



逐次刊行物研究分科会

## ASIAの状況<中国編>

「我が国のオープンアクセスの現状

及びその戦略について分析」

魯東大学 馬愛芳、王宝英

中国のオープンアクセスは欧米に比べ発展の途上にある

<特徴>

- 処理済みの公文書や電子プレプリントを公開するためのもの

<中国国内のオープンアクセス>

- 中国科学技術論文オンライン
  - 奇跡文庫
  - 中国プレプリントサービスシステム
- 



逐次刊行物研究分科会

## ASIAの状況＜中国編＞

中国のオープンアクセスの現状は、発展初期で十分に普及された状況ではない

- 出版社による目録やダイジェスト
- 冊子体に付帯されたもの
- 個人著者によるプレプリント
- ブログ

これらは本来のオープンアクセスとは違いがある

今後の普及のため、学協会・出版社・図書館界の推進と宣伝に期待する



逐次刊行物研究分科会

## ASIAの状況＜韓国編＞

IFLA 2006 SEOULから

『The Open Access Movement in Korea's R&D Environment』

Hyekyong Hwang

- 韓国と先進国では隔たりがある
- 韓国における学会の特異な事情
  - 民間の出版社が学術誌を発行することはない
  - 著者権上の問題は他国ほど深刻ではない
  - 以前から論文や資料を無料または安価にて使用できる環境が整っていた
  - 自身の研究結果を海外の学術誌を通して公表するのが好んだ



逐次刊行物研究分科会

# ASIAの状況<韓国編>

2005年韓国科学技術情報研究院(KISTIS)は政府援助の韓国技術情報システム(NTIS)の開発に着手

→誰もがいつでも容易に情報を利用できるように

- 物理学分野におけるオープンアクセスE Printsアーカイブの構築

<結論>

先進国の動向に安易に追従はしない

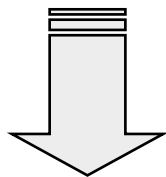
グローバルな規模で科学技術分野の情報共有に努力する



逐次刊行物研究分科会

## おわりに

(出版社主導) 学術情報流通の危機



オープンアクセス  
機関リポジトリ

(研究者主導) 学術情報流通への変革



逐次刊行物研究分科会



ご静聴ありがとうございました



逐次刊行物研究分科会